

夢をつかむ“挑み力” ～世界の頂点に立った2人の対談～

実施報告

世界の頂点に立った2名の講師を迎え、チャレンジすることの大切さ、過去にとらわれることなく常に挑戦し続ける前向きな姿勢、そして夢を叶えるためのコツを語っていただきました。

- 日時： 2007年 10月27日（月）17:00～19 :00
- 場所： 東海大学 湘南校舎 松前記念館講堂
- プログラム： 夢をつかむ“挑み力”
～世界の頂点に立った2人の対談～
- 講師： 篠塚 建次郎[しのづか けんじろう]（ラリードライバー）
山下 泰裕[やました やすひろ]（東海大学体育学部教授）
- 参加者 131名（学生99名、教職員23名、一般9名）
- アンケート回答 116名

本セミナーの成果

（講演の要旨）

篠塚氏は、大学時代に偶然友人に誘われ、一緒に見に行ったのがラリーとの出会いでした。その後、ラリーに興味を持ち、走っているうちに自分の能力がラリーに向いていることがわかり、今までずっと続けてきたそうです。日本では、比較的若いころから頭角を現してきた篠塚氏も、世界に挑戦した際、大きな差を感じたとのこと。しかし、何度跳ね返されても、諦めず挑戦することにより、少しずつ差を詰め、パリ・ダカールラリーで優勝するに至りました。

山下氏は、過去の栄光を振り返るよりも、今をひたむきに生きるという想いで、新しいことにチャレンジしているとのこと。最初から全部がうまくいくわけではなく、「成功するよりも失敗したほうが、多くのことを学べる。頑張っただけで挑戦したことにより、少しでもうまくいくと自分に自信を持つことができる。」こと、また、「他人と比較する必要はない。昨日の自分、1年前の自分と比べることのほうが重要だ。」とし、大きなことでなく、常に挑み続けることが必要と語っていただきました。

今後の二人の夢としては、篠塚氏はセネガルで学校建設や、文房具を送るなどの活動をしており、好きなことを伸ばしてあげる教育をしていくこと、山下氏は、スポーツを通してイジメをなくしていく活動を行うとともに、外国の人に「日本の文化・心」を伝えるような活動をしていきたいと語っていただきました。



講演の最後には、二人の講師より来場者に向けて「常に何かに挑むことで人生が楽しくなる」、「立ち止まっているのではなく、自分から夢を見つけるために、新しい世界に一步踏みこんでもらいたい」というメッセージが伝えられました。



■参加者からは次のような感想が寄せられました。

- 輝かしい成果を残した両講師が、過去の栄光に安住せず常に挑戦を続けている姿は素晴らしい。
- 失敗を恐れず、挑戦していこうと思った。
- 夢を持ち、それに向かって挑み続けることの大切さを知った。
- 小さなことでもチャレンジしてみることが夢を見つける第一歩ということを知り、好きなことをしてエネルギーに満ちた人生を過ごしたいと思った。
- 自分は考えてから行動するほうで、やりたいことがまだはっきりしませんが、今回山下さんの話を聞いて感動しました。やりたいなら思いっきり、考えずにまず行動しようと改めて思いました。今日のセミナーをきっかけに、これから何でもやっていこうと思います。
- 成功する、しないに関わらず、夢を持ちそれに向かって挑戦するということが、大事なことであり考えさせられた。これからは臆せずに夢に向かって一歩ずつ進んでいきたいです。
- 自分に合うものを見つけるまで、時間をかけても見つける努力をやめないことの大切さを知った。
- 学生も教員も「自分や学生の挑み力を如何に育てるか」という課題を持っているが、それに答えてもらった。
- 海外と日本の教育の違いに驚いた。
- 本当の人間というものを教えてもらった。
- 一歩を踏み出すことの大切さ、自分を変えるために「気楽に挑戦」という言葉が印象的。
- 他と比較せず、「昨日の自分と比較する」という言葉が印象に残った。
- 山下先生の「自分を磨き、そこから回りを変えることができる」という言葉が印象に残った。

今後の事業への展開

今回の講演で、世界の頂点に立った二人の講師が共通して語った「失敗を恐れず、常に新しいことに挑み続けることが、自分の成長につながる」という講演内容と、本学の教育方針である「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を関連付けることができ、前回までのセミナーと同様に、本取組の意義を学生に分かりやすく理解させ、様々な活動に参加する意欲

を高めることに大変有効でした。また、お二人は社会貢献活動にも取り組まれており、プロジェクト活動に参加する目的意識を内発的な気付けさせることができました。今後もこうしたセミナーを企画し、学生の学習意欲を引き出しながら、社会のニーズに応えるプロジェクト活動の支援に役立てます。

<p>篠塚 建次郎 (しのづか けんじろう) 氏</p>	<p>【 経 歴 】 ラリードライバー 1948年11月20日 生まれ 東京都大田区出身 東海大学工学部卒業</p> <p>大学在学中からラリーを始める。卒業後、三菱自動車工業株式会社に入社。三菱のファクトリードライバーとしてラリーに参戦。国内ラリーにおいて圧倒的な強さを見せ、1975年に海外ラリーに進出。1976年のサファリラリーで日本人初となる総合6位入りを果たす。1977年より8年間の活動休止期間を経て、1986年に俳優の夏木陽介氏と共にパリ～ダカールラリーに出場したのを機にラリー活動再開。1987年総合3位、1988年総合3位と、好成績を挙げ、WRC(世界ラリー選手権)にも出場。1988年アジア・パシフィックラリー初代チャンピオン、1991年1992年WRCアイボリーコーストラリーで2年連続の総合優勝を勝ち取った。そしてついに、1997年パリ～ダカールラリーで日本人初の総合優勝を成し遂げる。 現在も世界の舞台で戦うことのできる数少ない日本人ドライバーである。2008年9月には、東海大学チャレンジセンター・ライトパワープロジェクトのドライバーとして南アフリカ・ソーラーカー・チャレンジに出場。南アフリカー周4, 200kmの走破にチャレンジした。</p>
<p>山下 泰裕 (やました やすひろ) 氏</p>	<p>【 経 歴 】 柔道家 段位8段 1957年6月1日 生まれ 熊本県山都町出身 東海大学体育学部卒業、同大学大学院体育学研究科修了</p> <p>現東海大学体育学部教授ならびに同大学柔道部部長も務める。また、全日本柔道連盟理事として、日本柔道界を教導している。 柔道8段。1985年6月に現役を引退するまでの9年間は、無敗の203連勝という大記録を打ち立てた。また、同時期に全日本柔道選手権9連覇の偉業も達成している。 1980年モスクワオリンピックは、日本のオリンピック不参加表明のため、代表に選ばれながらも試合に参加できないという苦汁を飲んだが、1984年ロサンゼルスオリンピックでは、男子柔道無差別級で怪我をおしながらもみごと金メダル獲得。同年の10月に国民栄誉賞を受賞した。 現役引退後もアトランタおよびシドニー五輪の日本代表監督、世界選手権監督などを務め、中村3兄弟、井上康生など、数々のオリンピックチャンピオンや世界チャンピオンを送り出した。日本柔道会のみならず、武術～スポーツ、教育とフィールドを広げ、国際的に活躍している。</p>